

高名の木登り

このコーナーでは、職員の趣味や特技を紹介します。
今号は、松尾副病院長（歯科担当）に寄稿いただきました。

サンゲマルマル峰（7050m）、その頂上には光が満ちていました。パキスタン、カラコルム山脈に座するこの未踏峰はバツラ山群に属し、遠くにラカポシ峰、そして北杜夫¹⁾の憧れの山ディラン峰が望めます。ラインホルトメスナー²⁾は8千メートルに近づくと神のにおいがすると言いました。私は特に神のにおいは感じませんでしたが、不思議な幸福感に包まれていました。きっとエンドルフィンなど脳内ホルモンの様物資が溢れんばかりに分泌されていたせいと思われます。5000mを超えると空気は平地の半分となります。無酸素登頂で高度障害が出ていたと思われるが、身体はアドレナリックなパワーに満ち、冷静にもその時考えていたことは、如何に全員無事に麓の村フンザに降り立つかと言うことでした。そして、頭に浮かんだのは「あやまちは、やすき所に成りて、必ず仕（つかまつ）る事に候ふ」³⁾という徒然草にあった言葉でした。この言葉を旨にし、最後まで気を配って全員無事に下山することができました。

そして数年後、遠征隊員が集まることがありました。ある隊員が私に言いました。「松尾さん、あれからアホになったと思いませんか?」。ムムッ、そう言われれば思い当たる節が!

副病院長(歯科担当) 松尾 敬志



1984年7月 筆者サンゲマルマル峰山頂にて

- 1) 北 杜夫：小説家。父は歌人の斎藤茂吉。
著作：楡家の人々、白きたおやかな峰など。
- 2) ラインホルトメスナー：世界で初めて全8000m峰を踏破した斯界の英雄。遠征時にラウルピンディーで会ったが、仙人みたいな顔をしていた。
- 3) 徒然草（吉田兼好）百九段「高名の木登り」の一節。大学受験のため嫌々勉強したが、未だに頭に残っている。受験古文、侮るべからず!

サンゲマルマル峰



病院の災害対策について



このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業についてご紹介します。
今号は本院の災害対策への取り組みについてご紹介します。

阪神・淡路大震災は1995年1月17日、死者行方不明者が2万人を上回った東日本大震災は2011年3月11日に発生しました。阪神・淡路大震災は、住民の多くは関西地方にこのような大きな地震が発生するとは思ってもいなかったのではないのでしょうか。これ以後、震災に対する意識は変わったものの、東日本大震災のような津浪が日本を襲うとは予想していなかったのではないのでしょうか。自然はいつも人間の予想を上回る災害をもたらします。文明の進歩により、震災に強い都市になっているはずですが、犠牲者の数はいつの時代の大震災から比べても減っていません。これに対するには日頃から対応を怠らないことが肝要です。

徳島県では東海・東南海地震による津波を伴う大災害が予想されています。阪神・淡路大震災と東日本大震災の間隔は20年にも満たないものです。今は大震災の記憶も褪せず、福島原発にいたっては処理の目途さえ経っていません。震災に対する意識も高く保たれています。病院は震災時には特別な機能を果たさなければなりません。そのためには、震災に強い病院でなければ県民の期待に応えることはできません。本院は平成24年3月に徳島県の災害拠点病院に指定を受けました。病院を挙げて震災に強い病院へと生まれ変わる努力が日々行われています。ハード面、インフラ面では着々と進んでいます。一方で、災害時に病院が機能するためにはソフト面での強化も必要です。

災害対策室では関連機関や民間事業者との連携強化、災害対策訓練の実施、病院災害対策マニュアルの改訂、転倒・転落防止対策、備蓄食糧の管理など災害対策に必要な事項を検討・準備しています。災害対策訓練は重要項目として考え、平成16年から毎年実施している化学災害患者の除染訓練に加え、平成25年7月には本院初の多数傷病者受入訓練（トリアージ訓練）を実施しました。負傷メイクを施した模擬患者の協力のもと、トリアージセンターや各救護エリアの設置、患者受入、診断、処置、搬送の一連動作を確認しました。緊張感ある訓練により職員個々の対応力向上や意識向上を目指しています。救急隊員の参加は、災害時の他組織との連携面での訓練にもなりました。

今後も職員が災害時に効率よく対応できるよう検討を重ね、災害に強い病院となるために役割を果たせるように努力していきます。

災害対策室長 西村 匡司

院内広報誌の愛称がHarmonyに決定しました!

院内広報誌創刊にあたり、よりいっそう職員みなさまに親しんで頂ける広報誌を目指し、愛称を募集したところ、6名の方から12件の応募があり、広報委員会選考の結果、

Harmony

に決定しました。 応募者：栄養部 長尾紀子さん

「医療技術と生命の尊厳とのHarmony 各部門間のHarmony 心身のHarmony 社会とのHarmony この気持ちを持って当院で働いていることの表現場所のひとつとして広報があってほしい。」との思いからご提案いただきました。

愛称も決定し、これまで以上に、職員の皆様に愛される院内広報誌を目指しますので、よろしくお願いします。

TOPICS

キャリアアップ講習会のご案内 形成外科病理組織セミナー

【日時】平成26年4月18日（金）19時00分～21時00分

（年4回実施予定）

【場所】形成外科学医局

【講師】安齋 眞一氏（日本医科大学附属武蔵小杉病院 皮膚科部長）

皮膚病理組織講習会

【日時】平成26年4月19日（土）8時30分～13時30分

（年4回実施予定）

【場所】皮膚科医局

【講師】安齋 眞一氏（日本医科大学附属武蔵小杉病院 皮膚科部長）

病院NEWS



食道・乳腺甲状腺外科、呼吸器外科

毎年恒例の医局スキー旅行に行ってきました

今年は1月3日から2泊3日で皆生温泉と大山ホワイトリゾートに行ってきました。今回は丹黒教授一家を筆頭に医局員とその家族に加えて病棟と手術室の看護師さんにもご参加いただきました。温泉で日頃の疲れを癒やし、全力でスキー、スノーボードを楽しみました。医局員だけでなく日頃お世話になっている看護師さんたちと親睦を深めることができ、大満足のスキー旅行でした。

呼吸器外科 西野 豪史

看護部

管理者で経験を共有し交流を深めました

平成26年1月18日（土）サンシャイン徳島アネックスに於いて、看護部管理者研修を行いました。看護師長29名、副看護師長50名、看護部と竹内アドバイザーを含め、総勢85名の参加がありました。

看護部長挨拶では、交流を深める機会にしてほしいとの言葉がありました。午前は、今年度の成果発表と午後から梅原美和子先生の「医療スタッフのためのキャリアカウンセリング」講演を聴きました。

いろいろな経験を共有して、これからの看護部を支える人材を育成していきたいと思います。

看護部 久米 博子



卒後臨床研修センター

当直スキルアップセミナーを開催しました



卒後臨床研修センターでは、平成25年度から、適切な判断により救命・機能改善につながるよう、当直における診断・治療のポイントについてのセミナーを開催しています。今回、平成26年3月3日に、シドニーオリンピック競泳銅メダリストの源純夏氏をお招きし、第5回当直スキルアップセミナーを開催しました。源氏は、平成24年に徳島県ライフセービングクラブを設立し、水難事故の予防や救命救急などに努めています。救命救急の現場の実態と、現場から医師へ望むことなどの講義に、参加者82名は熱心に耳を傾けていました。

総務課 卒後臨床研修部門 兒玉 実和

周産母子センター

祝・院内助産システム「ひなた」50人達成！！



2月28日、周産母子センターで「ひなた」50人達成記念パーティーが開催されました。

ひなたは、妊娠中から分娩、産褥まで受け持ち助産師が継続して関わり、母子とその家族をサポートするシステムです。助産師は、母子とその家族に寄り添い、産む力・生まれてくる力を最大限に発揮できるよう関わっています。

産科医師、看護副部長、病棟スタッフに祝福され、笑顔あふれるパーティーとなりました。

周産母子センター 上田 美香